

## 黒川能の里王祇会館 - 展示解説文（1日の流れ）

2月1日

旧暦で新年を祝い、来年の平和と豊作を祈願するために開催される王祇祭の初日です。午前6時頃、春日神社神社の上座と下座のメンバーが、神社の小さな窓からそれぞれの王祇様（神の権現）丁寧に降ろされ。その後、春日神社のメンバーが各座の聖なる灯籠を率いて行列を始め、約40人の子供たちと他の祭り参加者が続きます。途中で、2つの座は分裂し、それぞれの当屋に向かいます。

午前10時頃、各座のメンバー全員が当屋に集まり、式典を開始します。下座の女性と子供が最初に集まり、次に男性が集まります。上座では、組み立ての順序が逆になっています。儀式のこの部分では、各座のメンバーはそれぞれの王祇様に厳粛に挨拶します。全会員の氏名を読み、来年の信徒を確認します。公務が終了した後、お祝いの食事が提供されます。料理には、お祭りの別名である豆腐まつりを反映した特別な焼き豆腐が含まれています。

午後6時頃、祭りのハイライトとして地元の能楽、黒川能の公演が始まります。暁の遣いは午後9時頃に下座の当屋から上座の当屋に移動します。一連の能楽のマイナーな作品の終わりに、彼はステージに着席します。その後、王祇様と上座に挨拶し、これまでの祭りでの成功を祝福し、翌朝神社への参拝を要請します。黒川能の公演は一晩中続き、深夜おやつを食べる時のみ中断されます。

2月2日

午前5時頃、第4回奏曲が終了し、公演は終了。座のメンバーがステージを解体し、春日大社に戻るために列を作り始め、そこで最終的な儀式が行われます。

前夜に夜明けの使者を送る下座に往復するために、上座は下座に七度半の遣いを送ります。あいさつを7回繰り返すことで、最高の敬意を表します。

午前8時ごろ、両座の王祇様は、神社の参拝所に戻されます。

午前2時頃には、神々の使者として子供が舞を踏みつける大地踏みの儀式が続きます。そして両座が共同で演舞する式三番が続きます。

午後4時頃、来年の当人を決め翌年の王祇祭まで王祇様を神社に戻す最終式が行われます。